

## 公表

## 児童発達支援 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート鹿島(児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	R7年 12月 9日 ~ R8年 1月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	R7年 12月 1日 ~ R7年 12月 13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 2日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども一人ひとりの特性や気持ちを丁寧に理解し、寄り添った支援を行っている。	・子どもの成長や支援内容が、よりわかりやすく伝わるような情報提供を工夫している。	・職員間の共通理解をさらに深め、支援の一貫性を高める取り組みを行う。
2	・運動スペースや環境構成を活かして、切り替えやすく安心して活動できる支援を行っている。	・活動内容を区切り、視覚的にわかりやすい環境を行っている。	・発達段階や特性に応じた運動・活動内容のさらなる充実を図る。
3	・安全配慮を徹底し、訓練や日常支援において保護者が安心できる体制を整えている。	・連絡帳・LINE・SNSを活用し、保護者との情報共有が丁寧かつ迅速である。	・保護者様への助言やフィードバックの継続的な質の向上

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援の狙いや成果が、保護者の皆様へ実感していただけていない。	・支援の狙いや成果が、保護者によりわかりやすく伝わる工夫	・保護者様への説明やフィードバックを、より分かりやすく伝える工夫を継続する。
2	・職員間での情報協調有り振り返りの時間を充実の必要性、非常勤の先生にも情報共有がいきわたっていない。	・職員間での情報共有や振り返りを充実させること。	・職員間でケース共有や意見交換の機会を増やし、支援の統一と質の向上を図る。
3	・支援内容や支援方法において、更なる幅を持たせる余地がある。	・子どもの特性や発達段階に応じた支援方法の継続的な見直し	・活動プログラムについて、子どもの発達段階や特性に応じた見直しを行う。

## 公表

## 放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート鹿島(放課後デイサービス)			
○保護者評価実施期間	R8年12月9日		~	R8年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		~	R7年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月2日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども一人の個性に合わせてバランスよく支援する方針を取っている。	・療育をただ提供するだけでなく、子ども自身が成功体験を積み、自信につなげる工夫を行っている。	・季節ごとイベント、外出プログラム、地域交流イベント、社会体験(施設・工場見学)など、日常生活と社会性を広げていく。
2	・子どもの発達特性を理解し、個別に寄り添いながら療育を行う姿勢が大切にしている。これにより、集団活動に馴染みにくい子どもでも安心して過ごせる環境つくりを行っている。	・個々のペースに合わせて最適な働きかけが出来るよう、支援計画の見直しやスタッフによる多角的な観察・対応を行っている。	・利用者ごとの支援計画や療育プロセスを保護者様により詳細に共有していく。
3	・学校後の時間に ・宿題や学習支援 ・集団遊びやイベント ・生活習慣や社会性のスキルアップ など、学校生活と社旗生活につながる支援プログラムが提供され、日常生活で必要な力を育てている。	・スタッフが最新の療育知識を持ち、安全で質の高い支援が出来るように、研修や専門的な指導体制も整えている。	・学校・相談支援・医療機関との情報共有・支援会議を実施し、家庭・学校・事業所での一貫した支援を目指している。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援内容や成果が保護者に十分伝わりにくい面がある。日々の支援は行っているものの、療育の狙いや成長が可視化され難いから、」わかりやすい説明や共有の空が必要である。	・発達段階や特性、行動面の課題が一人ひとり大きく異なり、一一般的な支援では対応が難しい晩年が増えてきていることが要因の一つである。	・個別支援計画に基づく支援の狙ねらいや、日々の小さな成長を記録・共有し、保護者様にもわかりやすく伝える工夫を行う。
2	・経験や専門性の違いにより、支援の視点や関わり方にはばらつきがあり、共通理解を深める必要がある。	・職員の経験年数や専門性に差があり、支援の質や視点にばらつきが生じやすい。	・定期的なミーティングやケース検討を通じて、支援の視点や関わり方を共有し、チームとして一貫した支援が行える体制を整える。
3	・学校・他事業所、医療・相談支援専門員との情報共有が限定的になる場合があり、より一貫した支援体制の構築が課題である。	・それぞれの機関で情報共有の手段や頻度が異なり、必要な情報が十分に集約されにくい状況がある。	・学校、相談支援専門員、医療機関等との情報共有を行い、継続性・一貫性のある支援体制を構築する。

## 公表

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハート鹿島(児童発達支援)				公表日 R8年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	職員配置と運動させながら、安全に配慮した人数調整を行っている。	活動内容によっては十分なスペースを確保しづらい場面がある。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0	年齢や発達段階、特性を考慮し、柔軟に職員配置を行っている。	人数として充足しているが、経験年数や専門性に差があり、支援の質にばらつきが出る場面がある。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	写真・絵カードを用いて、子どもが見て理解しやすい情報提示を行っている。	音や人の動きなどの刺激により、落ち着きにくくなる児童への配慮が今後さらに必要である。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	毎日の清掃・消毒を行い、清潔で安全な環境の維持に努めている。	季節や天候による室温・湿度調整について、より細やかな配慮が必要な場面がある。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	子どもの特性やその日の状態に応じて、個別に落ち着いて過ごせる部屋やスペースを確保している。	子ども自身が「使いたい」と伝えられるような視覚的合図や選択肢の提示が十分ではない
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	0	定期的なスタッフミーティングの場で、支援内容や業務の振り返りを行い、改善点を共有している。	改善内容や検討経過について、職員間での共有が十分でない場合がある。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	回収した評価内容についてスタッフ間で共有し、改善点を共有している。	評価結果や改善内容について、保護者へのフィードバックが十分でないと感じられる場合がある。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	毎日のスタッフミーティングを通して、業務や支援に関する意見を出し合う機会を設けている。	意見を業務改善に結び付ける仕組み(ルール・流れ)の明確化が課題である。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	9	現在、第3者による外部評価を受けていない。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	研修後に、内容を職員間で共有する機会を設け、資質向上につなげている。	研修を受講する機会は確保されているが、業務に都合により参加できない職員が出る場合がある。
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	支援内容やねらいをホームページ等で公表している。	支援プログラムと日々の支援実践との結びつきが職員間で十分に共有されていない場合がある。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0	アセスメント結果をもとに、子ども本人の状況と保護者様のニーズを整理し、客観性を意識した支援目標設定している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	発達段階や特性、生活背景を踏まえ、子どもの最善の利益を第一に考えた支援目標・支援内容となるよう意識している。	児童発達支援管理責任者を中心に計画作成を行っているが、関わるスタッフ全員の意見を十分に反映できない場合がある。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	児童発達支援計画を職員間で共有し、日々の支援や記録の中で内容を確認できるようにしている。	非常勤職員や新任職員への共有方法に工夫の余地がある。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	日々の記録は「できた・できない」だけでなく、環境・きっかけ・支援の有無・子どもの気持ちを含めて記載している。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	計画作成時に、ガイドラインの「本人支援・家族支援・移行支援・地域支援・地域連携」の4つの視点を必ず入れて個別計画書に記載している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	定期的なスタッフミーティングやケース検討を通じて、複数の視点から活動内容を検討している。	業務の都合により、限られた職員で立案を行う場合がある。

供 給	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	運動・製作・集団活動・社会性・余暇活動などのバランスを意識している。季節行事や行事体験を取り入れ、多様な経験ができる工夫をしている。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	子どもの子どもの状態に応じて無理のない参加形態(部分参加・見学・個別対応等)を柔軟に取り入れている。	支援状況や、効果を計画の見直しに十分反映できていない場面がある。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	支援開始前には、必ず職員間で打ち合せを行い、その日に行う支援内容、活動の流れ、配慮事項を確認している。	非常勤職員への情報共有が行き届かない場面がある。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	個々の子どもの行動や反応、成功した点や課題となった点を共有し、次回の支援に活かすための情報交換を行っている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	日々の支援について、子どもの様子、支援内容、対応方法等を記録することを徹底して、支援方法の見直しや改善につなげる取り組みを行っている。	職員の経験や文章力の差により、記録の質にばらつきが生じることがある
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	モニタリング結果を、保護者へわかりやすく説明し、合意を得たうえで計画を見直していく。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	管理者・児童発達支援管理者が支援記録や個別計画書を確認して共有すべきポイントを整理して会議に参加している。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	必要に応じて、会議や連絡調整を通じた連携支援を実施している。	新たな関係機関との連携構築に、時間を要する場合がある。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	併行利用や移行を見据え、保育所・認定こども園・幼稚園・特別支援学校等と連携しながら支援を行っている。	今後は、定期的な情報交換の機会を設けるなど、相互理解を深め、より円滑な移行支援につなげていく必要がある。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	就学に向けて、小学校や特別支援学校と連携し、子どもの特性や支援内容について情報共有を行っている。	学校側との情報共有の方法や時期が一律ではなく、連携の深さを生じることがある。
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9	0	児童発達支援センターから毎月1回心理士さんに訪問していただき、困難事例や対応に迷うケースについて、専門的な視点からの意見を支援に活かしている。	助言内容を、職員全体で十分に共有できていないことがある。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9	0	今のところ実施しないが、子供の成長や状況の変化を踏まえながら、機会を設けられるよう検討していく。	
	33 曰頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	保育園送迎がほとんどで保護者様と直接会う機会が少ないのでSNSや連絡帳を活用し、保護者様にお伝えしている。良かった点だけではなく、課題となる点も具体的に共有している。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0	家族向けの研修や講座、関係機関に情報について、案内や情報共有を行っている。保護者様の就労状況により、研修等への参加が難しい場合がある。	保護者様の就労状況により、研修等への参加が難しい場合がある。
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	利用開始時に、運営規定や支援内容、利用者負担について書面を用いて説明している。	説明後の理解度確認や、継続的なフォローが十分とは言えない。
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	子どもの最善の利益を優先的に考え、家族と共に理解を図りながら計画作成をしている。	子どもの年齢や特性により、意思を十分にくみ取ることが難しい場合がある。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0	説明後には質問時間を設け、内容を確認したうえで同意を得ている。わかりやすい言葉で説明するよう配慮している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	必要に応じて、個別面談の機会を設け、まずは傾聴の姿勢で対応して具体的な助言や支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	0	保護者会を実施し、関りの場を設けている。	保護者会の開催が不定期で、交流の場として十分とは言えない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	送迎時や電話、面談等、複数の相談手段を確保し、相談しやすい体制づくりを行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	定期的にインスタグラムや保護者ラインにて、活動の様子や行事予定、連絡事項をわかりやすく発信している。	デジタルツールの利用に、保護者間で理解や活用状況に差がある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	個人情報の取り扱いについて規定を定め、重要事項説明書を通して保護者に周知している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	発達段階や特性に応じて、わかりやすい言葉や視覚的支援を用いて意思疎通を行っている。必要に応じて、保護者の理解度や不安に配慮し、繰り返し丁寧な説明を行っている。	子どもや保護者の理解度に合わせた、個別配慮が十分でない場合がある。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	9	今のところ実施無し。	地域に開かれた事業運営について、計画的・継続的な取り組みが十分とは言えないため、今後の工夫が必要である。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	職員会議や研修の場でマニュアル内容の確認を行い、共通理解を図っている。保護者に対しても、重要事項説明書や掲示等を通して、緊急時の対応体制について周知している。	家族への周知方法が、十分に伝わりきっていない可能性がある。
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	災害を想定した避難訓練を定期的に実施している。保護者様に対しても、非常時の対応や連絡体制について周知を行っている。	BCPや訓練内容について、定期な見直しと更新を行う必要がある。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	利用開始時に服薬状況・てんかん発作等の有無について保護者様から確認している。てんかん発作等、緊急時に配慮が必要な場合は、対応方法や連絡体制を確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	利用開始時に、食物アレルギーの有無について保護者様から聞き取りを行い、医師の指示書を提出してもらっている。	緊急時対応について定期的な研修や訓練の実施を検討する必要がある。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	安全管理に関する研修や訓練を定期的に実施し、職員の意識向上と対応力の強化を図っている。	安産管理に関する取り組みについて、定期的な見落としと改善を行う必要がある。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0	安全計画書を毎年保護者様に配布をして周知を行っている。	周知内容や方法について、定期的な見直しが必要である。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	ヒヤリハット事例を記録し、職員間で共有できる仕組みを整えている。	ヒヤリハットの報告件数にばらつきがあり、十分に拾い切れていない場合がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	虐待防止や権利擁護に関する研修を定期的に実施し、職員の意識向上を図っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	0	身体拘束に関する方針や対応について、職員研修や会議を通して共通理解を図っている。	身体拘束を行わずに対応するための代替手段や支援方法について、更なる検討が必要である。

## 公表

## 放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハート鹿島(放課後デイサービス)					公表日	R8年 2月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	職員配置と運動させながら、安全に配慮した人数調整を行っている。	活動内容によっては十分なスペースを確保しづらい場面がある。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0	年齢や発達段階、特性を考慮し、柔軟に職員配置を行っている。	人数として充足しているが、経験年数や専門性に差があり、支援の質にばらつきが出る場面がある。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	写真・絵カード等を用いて、子どもが見て理解しやすい情報提示を行っている。	感覚過敏の程度が異なるため、すべての子どもにとって快適な環境が難しい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	毎日の清掃・消毒を行い、清潔で安全な環境の維持に努めている。	活動内容が重なる際、空間の使い分けが十分にできない場合がある。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	不安や気持ちの高ぶり等に応じて、個別のはやや落ち着けるスペースを使用できるよう柔軟に使用できるようにしている。	子ども自身が「使いたい」と伝えられるような視覚的合図や選択肢の提示が十分ではない	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	1	定期的なスタッフミーティングの場で、支援内容や業務の振り返りを行い、改善点を共有している。	改善内容や検討経過について、職員間での共有が十分でない場合がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	回収した評価内容についてスタッフ間で共有し、改善が必要な点を話し合う機会を設けている。	評価結果や改善内容について、保護者へのフィードバックが十分でないと感じられる場合がある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	毎日のスタッフミーティングを通して、業務や支援に関する意見を出し合う機会を設けている。	意見を業務改善に結び付ける仕組み(ルール・流れ)の明確化が課題である。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	9	現在、第三者による外部評価を受けていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	研修後に、内容を職員間で共有する機会を設け、資質の向上につなげている。	研修を受講する機会は確保されているが、業務の都合により参加が出来ない職員が出る場合がある。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	支援内容やねらいをホームページ等で公表している。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	アセスメント結果をもとに、子ども本人の状況と保護者様のニーズを整理し、客観性を意識した支援目標を設定している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	発達段階や特性、生活背景を踏まえ、子どもの最善の利益を第一に考えた支援目標・支援内容となるよう意識している。	「最善の利益」の視点を、より具体的な支援行動に落とし込む工夫が今後の課題である。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	日々の支援記録を通して、計画に基づいた支援が実施されているかを振り返る仕組みを設けている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	日々の記録は「できた・できない」だけでなく、環境・きっかけ・支援の有無・子どもの気持ちも含めて記載している。	アセスメント結果を、保護者へわかりやすくフィードバックする工夫がさらに必要である。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	計画作成時に、ガイドラインの「本人支援・家族支援・移行支援・地域支援・地域連携」の4つの視点を必ず入れて個別計画書に記載している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	定期的なスタッフミーティングやケース検討を通じて、複数の視点から活動内容を検討している。	新任職員や非常勤職員がプログラム立案に十分参画できていない場合がある。	

援の提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	運動・製作・集団活動・社会性・余暇活動などのバランスを意識している。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	その日の子どもの状態に応じて無理のない参加形態(部分参加・見学・個別対応等)を柔軟に取り入れている。	下校時間が遅い場合、個別活動の時間が十分に確保できない場合がある。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	支援開始前には、必ず職員間で打ち合わせを行い、その日に行う支援内容、活動の流れ、配慮事項を確認している。	非常職員や送迎に先に出ている職員への情報伝達にばらつきが生じることがある。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	個々の子どもの行動や反応、成功した点や課題となった点を共有し、次回の支援に活かすための情報交換を行っている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	日々の支援について、子どもの様子、支援内容、対応方法等を記録することを徹底して、支援方法の見直しや改善につなげる取り組みを行っている。	職員の経験や文章力の差により、記録の質にばらつきが生じることがある。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	モニタリング結果を、保護者へわかりやすく説明し、合意を得たうえで計画を見直している。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	8	1	①自立支援・日常生活支援②創作活動③地域交流の機会の提供④余暇の提供を踏まえ、複数の活動を組み合わせた支援を行っている。	地域交流については、機会の確保や実施方法に難しさがある。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	選択した結果を尊重し、「自分で決めた」という経験を積めるよう支援している。	職員のかかわり方によっては、無意識に大人主導になってしまうことがある。
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	管理者・児童発達支援管理者が支援記録や個別計画書を確認して共有すべきポイントを整理して会議に参加している。	
関係機関や保護者との連携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	必要に応じて、会議や連絡調整を通じた連携支援を実施している。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	学校と、子どもの状況や支援に関する情報共有・連絡調整を適切に行っている。	情報共有の方法や頻度が、個々のケースや担当者によりばらつくことがある。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0	就学前の園や事業所での様子を踏まえ、子どもの安心感や見通しにつながる支援方法を取り入れている。	就学前の関係機関との連携が、保護者経由の情報に限られてしまう場合がある。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	9	障害福祉事業所につなげる年齢までの利用者がまだいないので行ったことがない。	今後、移行がある場合は相談支援員や移行先事業所と連携をし、サービス担当者会議等を通じた引継ぎを行っていく。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9	0	支援上の課題や困難例について、心理士さんに月1回訪問をしていただき、専門的視点から助言を受け、支援の質の向上につなげている。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	9		今のところ実施していないが、子ども成長や状況の変化を踏まながら、機会を設けられるよう検討していく。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	7	2	定期的に開催される自立支援会議に参加し、地域の支援体制や課題について理解を深めている。	
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	送迎時や連絡帳を活用し、保護者様にお伝えしている。良かった点だけではなく、課題となる点も具体的に共有している。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特レーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	家族向けの研修や講座、関係機関に情報について、案内や情報提供を行っている。	保護者様の就労状況等により、研修等への参加が難しい場合がある。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1	利用開始時に、運営規定や支援内容、利用者負担について書面を用いて説明している。	説明後の理解度確認や、継続的なフォローが十分とは言えない。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	子どもの最善の利益を優先的に考え、家族と共通理解を図りながら計画作成をしている。	子どもの年齢や特性により、意思を十分にくみ取ることが難しい場合がある。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	説明後には質問時間を設け、内容を確認したうえで同意を得ている。わかりやすい言葉で説明するよう配慮している。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	1	面談や日常のやり取りを通じて丁寧に話を聞いて、必要に応じて具体的な助言を行い、関係機関の情報提供や次も行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	0	保護者会を実施し、関りの場を設けている。	保護者会の開催が不定期で、交流の場としては十分とは言えない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	苦情があった際には、内容を記録し、職員間で共有したうえで、速やかに対応方針を検討している。	苦情を未然に防ぐための仕組みとして、日ごろからの情報共有や説明の充実をさらに図る必要がある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	定期的にインスタグラムにて、活動の様子や行事予定、連絡事項をわかりやすく発信している。	デジタルツールの利用に、保護者間で理解や活用状況に差がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	個人情報の取り扱いについて規定を定め、重要事項説明書を通して保護者に周知している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	発達段階や特性に応じて、わかりやすい言葉や視覚的支援を用いて意思疎通を行っている。必要に応じて、保護者の理解度や不安に配慮し、繰り返し丁寧な説明を行っている。	特性が多様であるため、意思疎通の方法が個別に十分対応しきれていない場合がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	9	今のところ実施無し。	地域に開かれた事業運営について、計画的・継続的な取り組みが十分とは言えないため、今後の工夫が必要である。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	職員会議や研修の場でマニュアル内容の確認を行い、共通理解を図っている。保護者に対しても、重要事項説明書や掲示等を通して、緊急時の対応体制について周知している。	マニュアルの定期的な見直しや更新について、計画的に行う必要がある。
非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	災害を想定した避難訓練を定期的に実施している。保護者様に対しても、非常時の対応や連絡体制について周知を行っている。	BCPや訓練内容について、定期的な見直しと更新を行う必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	利用開始時に服薬状況・てんかん発作等の有無について保護者様から確認している。てんかん発作等、緊急時に配慮が必要な場合は、対応方法や連絡体制を確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	利用開始時に、食物アレルギーの有無について保護者様から聞き取りを行い、医師の指示所を提出してもらっている。	緊急時対応について、定期的な研修や訓練の実施を検討する必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	安全管理に関する研修や訓練を定期的に実施し、職員の意識向上と対応力の強化を図っている。	安全管理に関する取り組みについて、定期的な見落としと改善を計画的に行う必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0	安全計画書を毎年保護者様に配布をして周知を行っている。	周知内容や方法について、定期的な見直しと空が必要である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	ヒヤリハット事例を記録し、職員間で共有できる仕組みを整えている。	ヒヤリハットの報告件数にばらつきがあり、十分に拾い切れていない場合がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	虐待防止や権利擁護に関する研修を定期的に実施し、職員の意識向上を図っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	身体拘束に関する方針や対応について、職員研修や会議を通して共通理解を図っている。	身体拘束を行わずに対応するための代替手段や支援方法について、更なる検討が必要である。